

滋賀県議会政策・土木交通常任委員会における主な意見

開催日：平成 24 年 9 月 12 日（水）

■全体

- 新生美術館という名称は、これで決まったのか。果たしてこれがふさわしいのか。
- この検討の原点は、琵琶湖文化館の収蔵品を移すことから始まったのではなかったか。滋賀県の財政状況は大変厳しい。それぞれ我慢している。そんな中で、「美の滋賀」だけが独り歩きしていないか。滋賀の将来に向けて、これが本当にプラスになるのか。
- この計画を見ると、大津・湖南で何かするんだなとしか見えない。滋賀県全体を巻き込んでいく計画でないといけない。
- 県政の中で、これからの人づくりや地域づくりといった点をどう位置付けるかが大切。その点を明確にしないとイケない。館の整備だけが先行しているイメージ。
- 財源はこれからという話だが、今の段階で夢を語るのであれば、もっと夢らしくないとだめ。新しく生まれる美術館と言いながら、これまでの美術館と同じ、延長のようにはか伝わってこない。

■運営管理

- 指定管理制度については、検討委員会では否定的な意見が多かったようだが、これまでと違う美術館を目指すのであれば、組織に新しい血を入れるという選択肢もあるのではないかな。

■施設・設備の整備

- これだけの規模の整備を考えるのであれば、予算は大事ではないか。具体的に示す必要がある。
- ここまでの整備を行うのに、交通機関がバスだけで良いのか、アクセスをどう考えるのか、全体的なイメージを示していく必要があるのではないかな。
- 概算費用が無いと議論ができない。これだけの面積であれば、30 億から 40 億円程度が必要になることは予想できるが。機能を積み上げて、あとから費用を出すのも悪いことではないが、今回の場合、同時並行で費用を出さないといけないのではないかな。
- 県民の中で、それだけお金をかけることに対する理解が得られるかどうか重要。財源をどうするかが最も大切で、そこを押さえずに検討委員会などで議論をすれば、どんどん

風呂敷が広がってしまう。予算の制約の中で計画をしっかり考えないと、きちんとした議論にならないのではないか。

- 11月議会で議論ができるのか。もう少し時間をかけて考えるべき問題ではないか。概算を示しながら、これからの行程も考えていくことになる。
- 今の収蔵庫が一杯ということだが、収蔵品を整理して、一部を売却といったことは考えられないか。